

西芳寺さいほうじは松尾まつおの南葉室なんはむろにあり、禪宗ぜんじゆうにして、本尊ほんそん阿弥陀あみだぶつ仏ぶつは聖徳太子しやうとくたいしの御作ごさくなり、開基かいきは聖武帝しやうむてい御宇ごう天平年中ていへいに行基ぎやうき

菩薩ぼさつ、中興ちゆうきゆうは夢窓国師むそうこくしなり。方丈ほうさうの庭ていは夢窓むそうの作さくなり。庭中ていぢゆうの造花四時ぞうかしじの風光ふうかう玄妙げんめうにして又比類ひらいなし。西来堂さいらいだう〔仏殿ぶつでんを

いふ、本尊ほんそんは来迎らいぎやうの像ざうなり。額がくは西芳精舎さいほうしやうじやと書かす〕瑠璃殿るりでん〔無縫閣ぶほうかくの閣下かくげをいふ〕釣寂庵てうじやくあん〔書院しよえんをいふ〕砺精れいしやう〔瀧口たきぐちの

傍たがひの小亭せうていをいふ〕壳風店かいふうてん〔山頂さんていへ登のぼる道みちの側わきの小店せうてんをいふ〕縮遠亭しゆくゑんてい〔絶頂てつていの小亭せうていをいふ〕黄金池わうごんち〔池いけをいふ、舟ふねの泊とどる

所ところを合同船ごうどうせんといふ〕向上関かうじやうくわん〔方丈ほうさうと指東庵しとうあんの小門せうもんをいふ〕指東庵しとうあん〔開山かいざん夢窓むそうの塔たつなり。向上関かうじやうくわんより入いつて庭中ていぢゆうの佳境けいけい

を開ひらく、南面なんめんの小菴せうあんを指東しとうといふ。是真如親王しんによしんわう山居さんこの旧地きうぢなり。国師こくし此室こしむつに入いつて和歌わかを詠よず〕

かくせたゞ道をば松の落葉らくがくにて我住われすまやどと人にしらすな 夢 窓

湘南亭しやうなんてい〔池中いけぢゆうの亭ていをいふ、橋はしを邀月いやくげつといふ〕潭北軒たんほくけん〔仏殿ぶつでんの北西ほくせいにあり、其庭そのていに紫竹むらさきたけ七莖しちせいを種たねたり、北斗ほくぶ七僧しちそうを標しるしすと

なん〕貯清しよせい〔北きたの小院せうえんをいふ〕土峰一覽つほういちらん〔貯清しよせいの南なんをいふ、比叡山ひゑいざんに向むかふ所に一字いちじを構かまてこれを名付なづけるなり〕影向石えいがうせき

〔夢窓国師むそうこくし親秀しんしゆうに命いのちじて觀池亭くわんちていを開ひらくるの日ひ、異人いじん七人しちにん来きつて其力そのちからを扶たすけ、石いしを動うごし地ぢを穿うつて自由じゆうを得える事こと数刻すうかくなり。

其名そのなを問とふにかつて答こたへず、即日庭けふていの觀泉池くわんせんち成就じゆうじゆし、白首老人はくしゆらうじん此石ここのいし上に坐まして、曰い我われ毎日まいにちこゝに影向えいがうすといひをはつてお

のく樹下じゆげにすがたを隠かくす。後のちに松尾明神まつおあきかみを觀請くわんじゆす。ある時とき所の幼童せうどうに神託かみたくして曰い、天照太神てんせうたいじん毎日まいにち此石ここのいし上に影向えいがうすとぞ、

此故こゝに石いしを鎮守ちんしゆうとす。一説いっせつには、国師こくし此庭ここのていの石いしを置おける時とき、僧そう一人ひとり来きり大石おほいしをこゝろのまゝに動うごし、庭造ていぞう即時けしに成なる。夢

窓まどこれを怪あやて問とるれば、洛四條みやこしやうあたりの者ものとてひたすら夢窓むそうの袈裟けさを望のぞけり、則すなはちあたへられしかば、其そのかはりとして錫杖しやくじやう

一枝残し置けり。後に四條住心院染殿地蔵の戸帳をひらけば、件のけさをかけながら錫杖なかりけり。今その錫杖は天龍寺りゅうじにありとなん」